

# 建造物の部

## えんこうじ 圓光寺

京都市東山区

### 茶室修理

#### 概要

偏照山と号する圓光寺は、慶長8年(1603)に建立された浄土真宗本願寺派の寺院である。

今回修理を行った茶室は、床柱に「利休十一世玄々斎宗室(花押)」と刻まれており、玄々斎(1810~77)により嘉永年間(1848~54)に造立されたものとみられている。また玄々斎が山科勸修寺宮のために営んだものとも伝えられるが、当寺に移された時期や経緯等詳細は不明である。茶室は境内の南端に位置し、その構えは、切妻造木造平屋建、棧瓦葺で、北側妻と西側面には庇を設けている。主に床及び内外壁の左官工事を主とする修理を行った。



茶室

## ちおいん 知恩院

京都市東山区

### 大方丈建具修理

#### 概要

知恩院は宗祖法然が念仏を広めた地で、現在の広大な伽藍は江戸將軍家の援助により造営されたものである。寛永10年(1633)火災に遭い多くの堂舎は焼失するが、寛永18年

(1641)にはほぼ焼失前の姿に再建されている。現大方丈もこの時のもので、建築的には17世紀初頭の形式を伝えている。今回修理を行った大方丈の舞良戸(板戸)は、火災後の再建時のものであり、当初から白貼であったかは不明であるものの、大方丈建具として欠くことのできないものである。



大方丈竹の間の舞良戸

## あんしょうじ 安祥寺

京都市山科区

### 権現社修理

#### 概要

安祥寺は、嘉祥元年（848）、仁明天皇女御で文徳天皇の母藤原順子（809～871）の発願により、入唐僧恵運僧都（798～869）が開山した真言系の密教寺院である。平安時代の安祥寺は醍醐寺と同様に山上伽藍と山下伽藍とから成っており、ともに堂舎僧房が建ち並び大いに隆盛した。今回修理を行った一間社流造の「青龍権現社」と呼ばれる鎮守社は、開基恵運僧都により唐よりもたらされた青龍権現（善女竜王）を鎮守・伽藍神として祀ったものと伝える。



権現社

## かやおじんじゃ 萱尾神社

京都市左京区

### 末社四社修理

#### 概要

日野村の産土神として地元の崇敬を集めている萱尾神社は、法界寺の北東に位置し、その創建については異説があつて定かではないが江戸時代までは法界寺の鎮守社であつた。現本殿は慶安5年（1652）に再建されたもので、末社四社も本殿と同じころに造営されたものと思われる。境内にはともに一間社流造りの柳社、若宮社、田中社、稲荷社の末社四社が祀られているが、いずれも老朽化による損傷が著しいため、昨年と本年の二箇年で二社ずつ修理を行った。



末社

## みょうきょうじ 妙教寺

京都市伏見

### 本殿修理

#### 概要

妙教寺は桂川右岸の納所北城堀に所在する法華宗真門流の寺院で、大坂の豪商法華又左衛門貞清が初代淀城主松平貞綱（1592～1652）の寄進により、宝泉院日孝を開山として開創されたものである。この辺りは淀君が一時居住した淀古城があった所で、北城堀、南城堀等の地名が残っている。幕末、鳥羽伏見の戦では砲火を浴びており、その時の四斤山砲による弾痕が壁や柱に今も残り、境内には戦死した幕兵の碑が建てられている。今回の修理は本殿屋根瓦の葺き替えを主として行った。



本殿

## こいづかてら 恋塚寺

京都市伏見区

### 山門修理

#### 概要

利剣山と号する浄土宗戀塚寺は、伏見区の鴨川左岸に所在する。平安時代末期、北面の武士遠藤盛遠えんどうもりとおが同僚である源渡みなもとのわたるに嫁いだ妻（袈裟御前）に恋をし、誤って彼女を殺してしまったことを悔いて出家し、文覚と名乗り、その菩提を弔うため嘉応2年（1170）堂宇を建立したのがこの寺の始まりと伝える。本堂などは各所において改築されており、唯一この山門のみが創建時の景観を残しているものとみられ、特に入母屋造、茅葺の景観は訪れる人に親しみを感じさせる。今回の修理は、茅の平葺部分を中心とする挿し茅補修を行った。



山門

# 美術工芸品の部

## せいわいん 清和院

京都市上京区

### 仏像修理

#### 概要

真言宗智山派に属する清和院は、清和天皇が譲位後の後院とされた所で、元は文徳天皇が今の京都御苑内に建てた仏心院がその前身と伝える。本尊は極彩色の精緻を極めた木造地藏菩薩立像（鎌倉時代・重文）である。寛文元年（1661）の御所炎上の際に類焼し、後水尾院と東福門院によって現在地に移転再興されている。今回修理を行った「木造不動明王及び両脇侍立像」の三尊は、鎌倉時代の製作でヒノキ材の寄木造である。増高は中央の不動明王で66.5cmを測る。彩色仕上げを施し岩座上に立つ。



木造不動明王及び両脇侍立像

## ごくらくじ 極楽寺

京都市左京区

### 仏像修理

#### 概要

極楽寺は、一遍上人を宗祖とする時宗の寺院で徳池山と号する。その始まりは平安時代中期の正暦元年（990）、恵心僧都源信により一条堀川に創建された天台寺院であったと伝える。

本尊は今回修理を行った木造毘沙門天立像で、像高は152.0cmを測る。恵比須神、大黒天とともに三尊を構成する。通常公開されることはなかったが、2019年に京都国立博物館における展覧会の事前調査により、鎌倉時代の製作で、像内には毘沙門天を描いた月輪などが納められていることがわかった。



せんにゆうじ  
**泉涌寺**

京都市東山区

**仏像修理**

## 概要

泉涌寺は、真言宗泉涌寺派の大本山で、鎌倉初期の建暦元年（1211）宋から帰朝した俊祐が、この地にあつて荒廃していた法輪寺を再興し寺名も泉涌寺として創建したものと伝える。この地が歴代の御陵地となったのは、仁治3年（1242）に四条天皇の月輪陵が山内に設けられてからで、それ以降これまでに、天皇・皇后・親王等、二十五陵五灰塚九墓が営まれる。今回修理を行った木造羅漢像は、現在は楊貴妃観音堂に安置されているが、もとは文明の兵火で罹災した山門に安置されていた十六羅漢像の一部とみられている。台座に腰をかける倚像で、ヒノキ材、寄木造、水晶製の玉眼、彩色仕上げを施す。



木造羅漢像

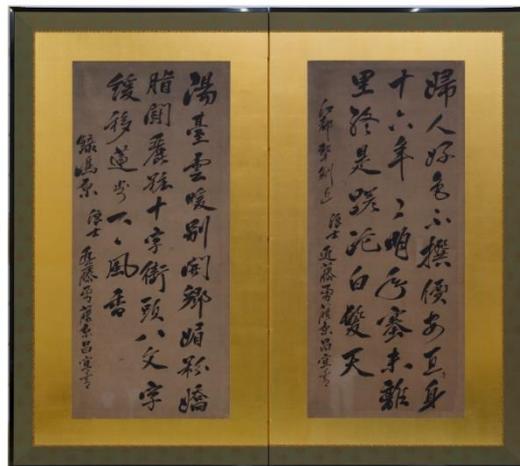
わちがいや  
**輪違屋**

京都市下京区

**屏風修理**

## 概要

輪違屋は、揚屋である角屋と並び古い由緒をもつ島原の置屋で、元禄年間（1688～1704）の創建と伝える。現在、二階には客室が九室配されているが、中でも傘を張った襖をたてる「傘の間」と土壁に赤や黒の押型の紅葉を散らす「紅葉の間」は当建築の中でも最も凝った座敷といえる。今回修理を行った金台紙貼二曲一隻屏風「近藤勇墨跡屏風」は、輪違屋に伝来する調度として著名なもので、幕末の新選組局長近藤勇（1834～1868）による漢詩の墨跡で、款記には「嶋原で録」とある。七言絶句からなる漢詩で、第一扇には年季が明けても借金が残り島原を離れることができない遊女の哀愁を詠み、第二扇には嶋原の町中における女性や太夫の練り歩くしぐさ等を詠んでいる。



近藤勇墨跡屏風